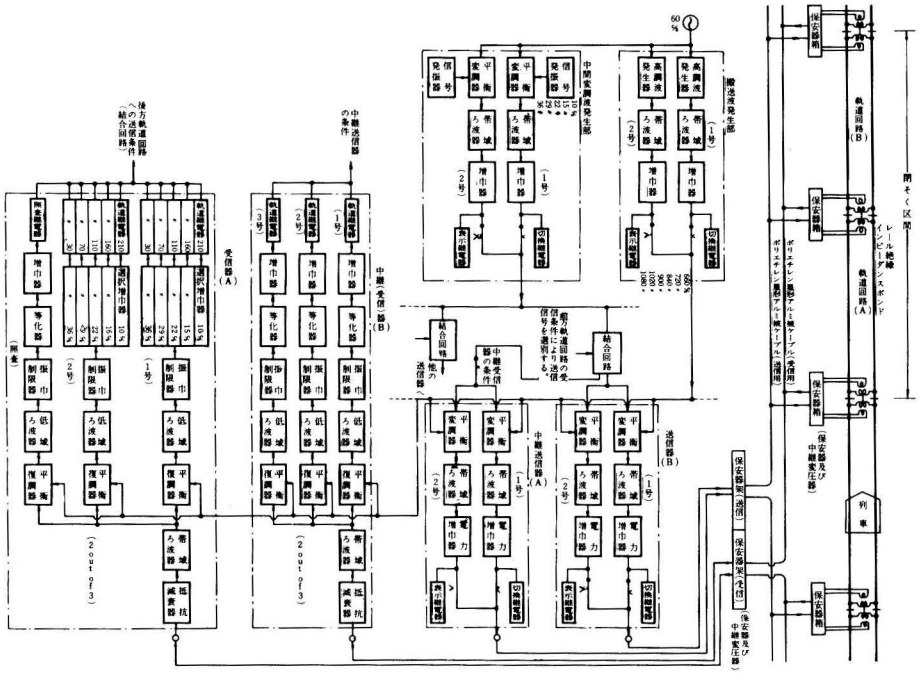
新幹線6現示機器集中方式 AF 軌道回路送受信機ブロック図



その信号に対応する**軌道受信継電器**を動作させる。この継電器は，その後方の軌道回路に送り出す信号波を選別する結合回路を作り，かつ，この継電器の落下により列車の有無を検知する。受信部は送信部・搬送波発生部・中間変調波発生部が1号，2号二つの回路をもっていて，その出力検知により故障時自動切替えをするのに対して，受信入力の有無では故障検知ができないので，選択回路をもった2組の受信回路と，選択回路のない信号波の有無のみを受信する1組の照査回路による3重系となっている。

5　中継部　一つの閉そく区間は約3kmであるが，1軌道回路の長さは技術的に約1.5kmが適当であるため，2軌道回路により構成されている。この二つの軌道回路は単に信号波の中継をするのみで十分である。したがって中継部は信号種別を選択受信する必要がないので，選択回路をもたない受信器により，信号波を復調して，中継する軌道回路の送信器入力としている。これは妨害特性をよくするためである。中継器も受信器と同じように3重系となっている。

6　継電器部　軌道受信継電器および送信器入力の信号波切替えに用いる継電器を集中し，信号波選別回路を構成している。

7　その他の架　以上のほかに各架に供給する60c/sや，直流電源の分配等を行なう電源供給架，軌道回路への送受信ケーブルとの接続のための保安器架等がある。**停止信号送受信器**は，それぞれ送信架・受信架に収容されている。また混触検知回路は保安器架に設けられている。

各架とも架の中央部に測定表示盤を設けて，その架の動作状況を表示燈により知ることができ，各種必要な測定を集中して行なえるようになっている。→過走防護用添線式軌道回路。軌道回路送受信機。

参考文献　日本国有鉄道仕様書 JRS 22945-18 AR 3　軌道回路送受信機（6現示機器集中方式）。宮崎洋一述　東海道新幹線に使用する自動列車制御地上装置の仕様概要（信号保安第17巻）。

（佐野皓良）